

所在地: 愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番

敷地面積: 160557m² 延床面積: 119778m²

設立: 1956年5月 従業員数: 1692名

ISO14001 取得: 1996年12月 最新更新: 2021年12月

主要製品: 換気空質分野、家電空質分野、環境エンジニアリング分野、環境デバイス分野

環境コミュニケーション: 21年度

情報開示: 7件 工場見学: 0名 ※コロナウイルス感染拡大
防止のため2021年度は工場見学受入れを中止 地域貢献活動: 8件

問合せ: 品質・環境センター 環境推進部 TEL: (080)-7993-7019



ごあいさつ

当工場は、名古屋市の北東部に隣接する春日井市にあります。春日井市は、1943年(昭和18年)に市制施行以来良好な住環境に恵まれた住宅都市として発展を続け、市民、事業者及び市が一体となって、環境都市春日井の実現をめざしています。当工場は、このような恵まれた環境の中、パナソニックグループの、室内の温度、湿度、清潔度、気流、除菌、脱臭、香りをコントロールしてひとりひとりに最適な空間を創るIndoor Air Quality(室内空気質)事業と工場やビル、道路トンネルなどの設備の設計から施工、メンテナンス、サービスまでのライフサイクル全体を通じて、空気や水、エネルギーに関するソリューションを提供する環境エンジニアリング関連事業に取り組み、事業ミッションである「空気・水の環境事業でくらしを支え、快適で永く健やかに過ごせる社会の実現」を目指しています。

また、2030年に向けて策定した当社環境サステナビリティビジョンは「空気・水の環境技術を核に、健康で長生きできる快適な空間づくりをグローバルに拡げ、持続可能な社会の実現に貢献するグリーン・イノベーション・カンパニー」を目指しており、気候変動による地球温暖化防止や社会課題の要請に応え更なる環境貢献活動を全従業員一体となって進めてまいります。



環境責任者

田頭 修二

2021年度の環境重点テーマの取組み

目標

成果

エネルギー削減貢献量: 394 GWh以上
(商品使用時の電力消費について、2013年を基準にした、商品の省エネによる電力削減量)

348 GWh

生産活動におけるCO₂排出量: 11,981t 以下 ※
廃棄物・有価発生物量: 3,620 t以下

CO₂排出量 11,682 t
廃棄物・有価物発生量 3,512 t

※1. 数値集計範囲は日本国内

※2. CO₂排出量の算定基準は環境省「温室ガス排出量算定方法に関する検討結果(2000年9月)」を基本。
但し、購入電力のCO₂排出係数は0.540kgCO₂/kWhの値で算出。

製品・環境配慮ポイントの紹介

**熱交換気ユニット 床置形
【FY-500ZR1N】**



**レンジフード
【FY-60DED3-S】**



**衣類乾燥除湿機
【F-YZVXJ60】**



製品の環境配慮ポイント

- 冬場は室内の暖かさに近づけて換気、夏場は室内の涼しさに近づけて換気し、換気による室温ロスを抑制
- CO₂濃度をセンシングし、在室人数に応じて換気風量を自動切換。必要な換気量を効率よく確保
- DCモーター搭載で低消費電力
- 3種(給気・還気・外気)のフィルターと「ナノイーX」搭載で、きれいな空気を室内に供給
- 花粉・騒音・虫など、窓開け換気による季節ごとの換気トラブル解消にも役立つ
- 既存施設へも後付け可能な床置タイプで、設置工事は室外吸込(OA)ダクトと排気(EA)ダクトの2本のダクト工事のみでOK

製品の環境配慮ポイント

- 調理物の温度を検知し自動的に風量を選択する「エコナビ」機能搭載
- 室内の温度を検知し、自動で排熱する「排熱運転」機能搭載
- HEMSとの連携で夏の帰宅前に排熱運転が可能
- 羽根の汚れを吹き飛ばす「油トルネード」機能搭載
- 省エネ、長寿命のDCモーターとLED照明を採用

製品の環境配慮ポイント

- 「カラットセンサー」搭載で温湿度とその変化から乾燥完了を見極めて自動停止
- 「エコナビ」搭載で洗濯物の量を自動で判断し無駄な送風を省く
- 温度の影響を受けにくく、梅雨、秋冬の寒い季節でもパワフルに除湿
- 衣類乾燥終了後、自動でお部屋を除湿。衣類への湿気戻りとお部屋の湿度上昇を抑制
- 低背 & 下から送風で省スペースかつ効率的に乾燥
- 「ナノイーX」搭載で洗濯物を除菌・脱臭しながら乾燥

環境パフォーマンスデータ

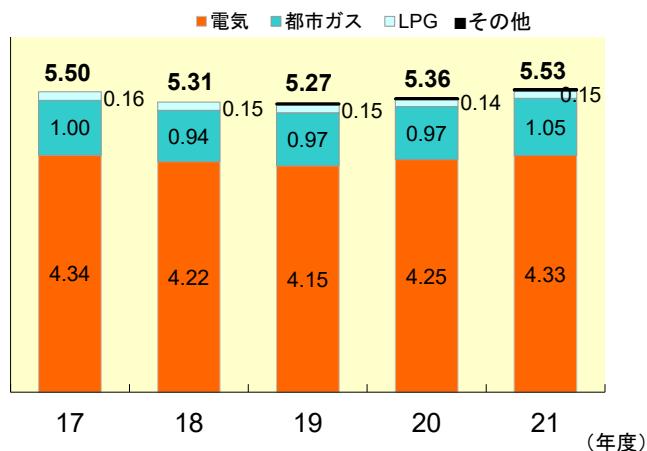
グラフ表示年 21:2021年4月1日～2022年3月31日

エネルギー使用量

単位:千kJ

CO2排出量

単位:千t



自然エネルギー発電量

21年度

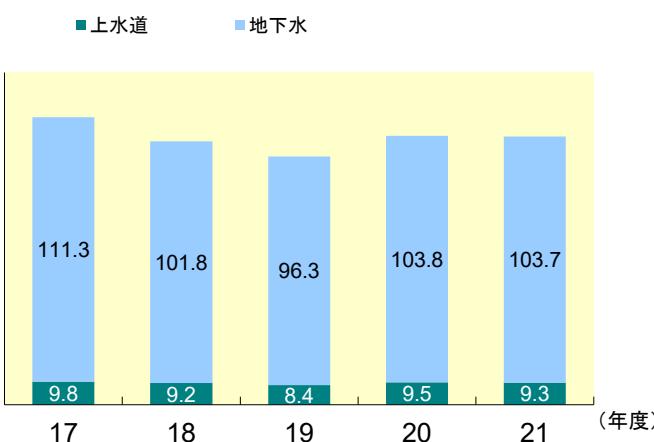
太陽光	1,612	千kWh
-----	-------	------

算出基準について

「エネルギー使用量、CO2排出量の算定基準。環境省「温室ガス排出量算定方法に関する検討結果(2000年9月)を基本。但し、購入電力のCO2排出係数は0.410kgCO2/kWh(2006～2018年度)。2019年度からは0.540kgCO2/kWhの値で算出。」

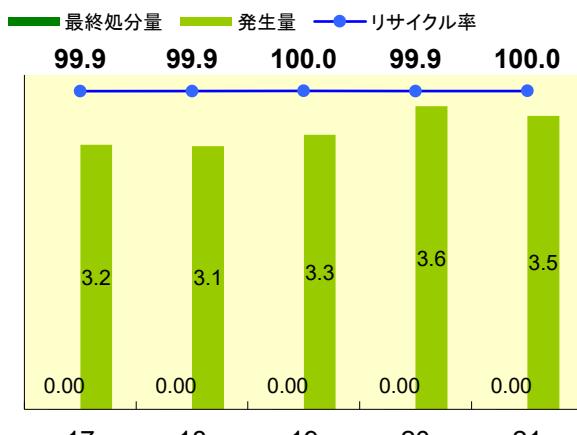
水の使用量

単位:千m³



産業廃棄物・有価発生物

単位:千t、%

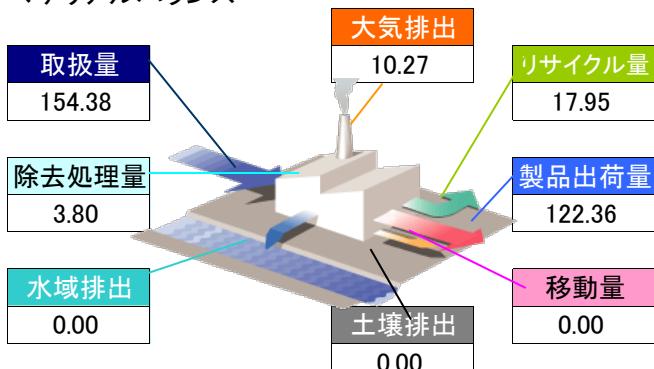


化学物質

単位:t

マテリアルバランス

21年度



化学物質

単位:カウント

ヒト・環境影響度



パナソニックグループの工場化学物質管理について

<http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/eco/chemical.html#factory>

環境パフォーマンスデータの特記事項

—

環境法令等の順法状況

21年度

<大気汚染物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
NOx	ppm	1号ボイラー(天然ガス)	150.0	100.0	14.5	19.0	2回/年
		2号ボイラー(天然ガス)	150.0	100.0	22.0	22.0	2回/年
		3号ボイラー(天然ガス)	150.0	100.0	24.0	27.0	2回/年
ばいじん	g/Nm ³	1号ボイラー(天然ガス)	0.30	0.01	0.00	0.00	2回/年
		2号ボイラー(天然ガス)	0.30	0.01	0.00	0.00	2回/年
		3号ボイラー(天然ガス)	0.30	0.01	0.00	0.00	2回/年

<水質汚濁物質計測状況>

	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	排水処理施設/総合排水口	25.00	16.00	3.51	4.70	12回/年
BOD	mg/l	排水処理施設/総合排水口	25.00	16.00	1.63	3.30	12回/年
窒素	mg/l	排水処理施設/総合排水口	120.00	60.00	2.92	4.60	12回/年
リン	mg/l	排水処理施設/総合排水口	16.00	8.00	0.29	0.44	12回/年

<騒音・振動>

	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 北側境界	75.00	70.00	66.00	66.00	1回/年
		夜 北側境界	70.00	65.00	52.00	52.00	1回/年
振動	dB	昼 北側境界	75.00	70.00	30.00	30.00	1回/年
		夜 北側境界	70.00	65.00	30.00	30.00	1回/年

法令規制値:法または条例および協定の規制する値

法令規制値超過について

報告すべき事項はございません

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
報告すべき事項はございません	

環境方針



パナソニック エコシステムズグループ 環境方針

パナソニックエコシステムズグループは空気・水の環境技術を核に健康で長生きできる快適な空間づくりをグローバルに拡げ持続可能な社会の実現に貢献するグリーン・イノベーション・カンパニーを目指します。

私たちは「環境」を事業活動の基軸に置き、空気質分野(IAQ)と環境エンジニアリング分野で豊かで安心・安全なくらしの実現に向け、事業の発展と地球環境の調和に寄与するグローバルな環境保護活動を追求します。

【行動指針】

1. 空気と水を創造するリーディングカンパニーに相応しい環境活動を実践します。
 - ・一步先のIAQ商品で、健康・快適な空間実現とエネルギーの有効活用(CO₂削減)に貢献します。
 - ・先進の環境エンジニアリング・ソリューション・サービスで、環境負荷低減に貢献します。
2. 環境関連法規制並びに社内基準を順守するとともに、事業を取り巻く利害関係者のニーズ及び期待に公正に対応します。
3. 有害化学物質の使用を適正に管理し、地球環境の汚染の予防と防止に努めます。
4. 地域社会と共生し生物多様性に配慮した環境活動と独自の環境活動・教育活動を実践します。
5. この環境方針に基づき、各サイトで環境方針、環境目標を設定し、実行と併せ、それらを定期的に評価し、当社関係、関連会社を含む全部門、全従業員で環境マネジメントを推進し、継続的改善を図ります。
6. 事業を取り巻く利害関係者に対して、環境に関する情報開示に努めます。

制定日 2022年4月1日

パナソニック エコシステムズグループ
環境統括管理責任者

山内 雄

Susumu Yamauchi

環境方針

パナソニック エコシステムズ(株) 環境方針

パナソニックエコシステムズグループは空気・水の環境技術を核に健康で長生きできる快適な空間づくりをグローバルに拡げ持続可能な社会の実現に貢献する グリーン・イノベーション・カンパニーを目指します。

私たちは「環境」を事業活動の基軸に置き、空気質分野(IAQ)と環境エンジニアリング分野で豊かで安心・安全なくらしの実現に向け、事業の発展と地球環境の調和に寄与するグローバルな環境保護活動を追求します。

行動指針

1. 気候変動の適応・緩和への取り組み、持続可能な資源の利活用、化学物質管理の強化による汚染の予防、生物多様性に配慮した環境活動推進で環境パフォーマンスを向上し環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境側面を常に認識することにより、環境リスク(脅威)並びに機会(同意するその他のニーズ及び期待)を特定します。加えて、グループのマザー工場として環境負荷の低いモノづくり体質の工場を目標に、以下の項目を環境管理重点テーマとして環境活動を行います。
 - (1) エネルギーの有効活用(CO₂削減)への貢献(生産活動+商品使用時)
 - (2) 高循環型商品づくり
 - (3) 資源(樹脂、金属、天然資源材料及び副資材)循環型のモノづくり
 - (4) 廃棄物、有価物発生量の削減と再資源化
 - (5) 化学物質による環境負荷の最小化と適正管理
 - (6) 環境保全に関する法規制を順守、及び自主運用基準による環境保全レベルの向上
 - (7) グリーン調達、グリーン購入の推進
 - (8) 地域社会と共生し生物多様性への配慮
 - (9) 事業を取り巻く利害関係者への環境関連情報の開示
3. この環境方針の達成の為、環境目標を設定し、実行するとともに、それらを定期的に見直し、当社の関係・関連会社を含む全部門、全従業員をあげて環境管理を推進します。

— この環境方針は、パナソニック エコシステムズ(株)のために働く全ての人に周知徹底するとともに、一般の人々が入手可能とする —

制定日 2022年4月1日

パナソニック エコシステムズ株式会社
環境統括管理責任者

田頭 修二

環境負荷削減の取り組み事例

■ エネルギー消費機器の更新によるエネルギー削減

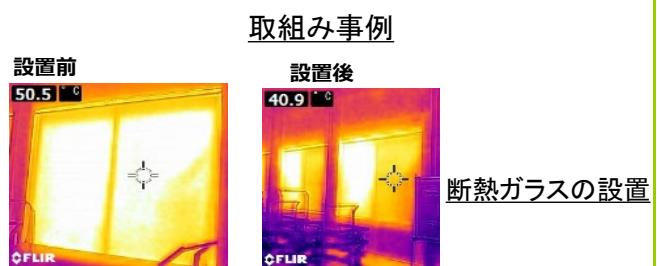
私たちパナソニック エコシステムズ社内には多くのエネルギー消費機器があり、省エネ性を考慮した計画的な更新・改善を行っております。2021年度も省エネタイプの空調への更新や、蛍光灯照明のLED化、断熱ガラス設置による夏季の消費電力低減などを実施しました。また運用面においても、会議室での空調切忘れをカバーする自動OFF設定や、照明器具への引き紐施設によるこまめな消灯などの工夫を行っております。これらにより、CO₂ 23トンを超える削減効果が見込まれます。今後もエネルギー削減に繋がる機器更新、活動を計画的に進めてまいります。

■ 生産性の向上によるエネルギーの削減

私たちパナソニック エコシステムズが保有している生産設備や、生産方法などについて、設備を省エネタイプのものに更新することや、生産所用時間を分析し、改善することによる、生産に使用するエネルギーの効率の改善を推進しております。2021年度も計画的に設備更新や活動を実施しました。それらにより、CO₂ 44トンを超える削減効果が見込まれます。

<2021年度に実施した エネルギー削減策例>

- プレス切り替え時間の削減(IoT活用)等による生産能力の向上
- 板金工程の加工データ見直し(IoT活用)等による生産能力の向上



断熱ガラスの設置



照明のLED化

環境コミュニケーション事例

■ 環境絵画コンクール

子どもの頃から環境について考える習慣を身に付けてもらう事を目的として実施しています。

テーマは「きれいな空気・水と生きもの」です。

空気や水をきれいにするために自分たちにできることや、生きものが元気にぐらす様子などを自由に描いた子ども達の力作が第16回目を迎えた2021年度は1,319点届きました。



最優秀賞



社長賞

春日井市と連携して「春日井市長賞」を設置し、3年目になります。

副賞として、絵画をラッピングしたパッカー車は『青空教室』など市内保育園を回ります。



■ 春日井市 エコライフDAY;「打ち水」の実施



春日井市は、市民や各事業場に対して8月の「エコライフDAY」に打ち水の実施を呼びかけています。当社は「かすがいエコオフィス」に認定された事業場としてこの環境活動に参画しており、8月4日(水)に社屋前で打ち水・散水を行いました。

■ サステナブルシーフードの取組み

SDGsへの貢献と社員の意識向上を目的に持続可能な生産(漁獲・養殖)に加え、加工・流通・販売過程における管理やトレーサビリティの確保について認証を取得しているシーフードを社員食堂にて提供しています。



緊急事態への準備と対応

考え方と訓練計画

緊急事態に対応するための手順や、緊急事態の発生の結果、発生する環境影響を予防、軽減するための手順を確立維持し、訓練を行っています。緊急事態対応とは、地震・火災・故障・事故・洪水(浸水)などにより、下記の事態が生じた場合の対応を想定しています

1. 公害防止設備において工場で定めた数値を超えた場合
2. 一般機械設備等から環境負荷物質が大量に漏洩した場合

※全員参加の避難訓練

訓練事例写真



フォークリフト油漏れの集合教育

■ 実際の緊急事態訓練

各部門ごとに工程・設備・作業について緊急事態の対象であるかを判断し、必要な部門については、対応手順書を作成し、それに準ずる緊急事態訓練を行っています。

訓練では、作業手順を確認すると共に、手順書の掲示場所・作業用具の保管場所等を周知し、迅速な作業が出来るように